

## 2021年度生産性向上支援訓練コース内容

主催：滋賀職業能力開発促進センター

コース番号	S07
コース名	中堅・ベテランに求められるコミュニケーション力
正式名称	チーム力の強化と中堅・ベテラン従業員の役割 ※上記「コース名」と異なる場合のみ記載しています。助成金申請の際には「正式名称」を記載して申請してください。「コース名」は受講者募集用に設定した名称です。
開催日時	2021/11/10 (水) 9:30~16:30 (昼休憩 12:30~13:30)
会場	ポリテクセンター滋賀 (大津市)
対象者	中堅層・ベテラン層 「伝えた」のに伝わっていなかった経験がある方/良好な人間関係を保ち、職場の課題を後輩と共同で解決したい方 ※「コース番号」の1文字目が「S」のコースは、申込時45才以上の方が対象ですが、45才未満の方も受講いただけます。
概要	中堅・ベテラン従業員が求められる今後の役割や能力を確認し、職場の課題に対してこれまでの経験に基づき後輩従業員と共同で解決策を得るための知識と技能を習得する。
ポイント	時にはリーダーとして、時にはフォロワーとして、アサーティブな対話等をツールとして、組織内で共有するアウトカムと組織力を増幅する手法を学びます。
内容	<p>1 職場の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社内での現状【講義】 日常業務の分析方法を学び、社内外のステークホルダとの信頼と責任の関係や、リスク対応やイノベーション挑戦の意義を再確認していただく。</li> <li>CSRやリスクマネジメントによる職場課題の再認識【講義】 停滞という組織リスクを正しく認識し、中堅・ベテランの力量の活かし方を学ぶ。</li> <li>「職場の課題」の分析【セルフワーク、ペアワーク】 「自分の不満・不安」を列挙し、その原因を自己分析する。</li> </ul> <p>2 求められる役割と能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中堅・ベテランの業務分析、リーダーシップとフォロワーシップのコミュニケーション方法などを学ぶ。</li> <li>理想像の想定【セルフワーク、ペアワーク】 自分がリーダー(フォロワー)だったときの「理想のフォロワー(リーダー)」像を列挙してみる。</li> </ul> <p>3 アサーティブの基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>非アサーティブからイメージするアサーティブ【講義】 アサーティブなスタイルを理解するため、非アサーティブとの対比から具体的にイメージし、さらにアサーティブスタイルからもたらされるアウトカムを理解する。</li> <li>アサーティブの条件【セルフワーク、ペアワークorグループ討議】 アサーティブな対話が成立するための条件を列挙し、自分にあるものとないに選別してみる。さらに克服方法を議論する。</li> </ul> <p>4 アサーティブな関係構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係の再構築のヒント【講義】</li> </ul>

	<p>具体的なテーマの目標設定や日常業務ルーティーンと緊急事態への準備・対応についての、中堅・ベテランのダイアログアプローチを、ヒントとして学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題解決ステップへの活用（アサーティブな関係の効果）【講義】 まず、「原因発見、対策発明、現状適用」の3ステップを学び、これを基盤として「アサーティブな関係性を醸成するシステム」の構築や、「アサーティブな組織」の実現を阻む現状要因を学ぶ。</li> <li>・ 現状組織の問題点【セルフワーク、グループ討議】 理想のアサーティブなチームが順調に成果を上げていく（軌道に乗る）までの、組織内における「懸念事項（心配事）」を列挙してみる。 さらにこの懸念事項を踏まえ、中堅・ベテランからの「提言書」を作成する。</li> </ul>		
実施機関	株式会社日本能率協会コンサルティング		
定員	15名	受講料	3,300円（税込）
持参品・ソフトウェア等	筆記用具	実施機関・講師からのメッセージ	
備考	<p>ペアワーク、グループワーク等は、講義聴講を通じて必ずマスクの着用をお願いします。 ウイルス感染状況により、グループワーク等はセルフワークに変更することがあります。</p>	<p>参加する中堅・ベテラン層が、自分の「何を」「どのように」変えるか、周囲の人々との関係性や組織の仕組みをどう変えていくべきか。 こうしたヒントをたくさん提供します。得られたヒントで、武器（道具）を作り、その武器（道具）を現場で使うことで、所属組織のポテンシャルを最大化してくださることを期待しています。</p>	